

## 5年 総合的な学習の時間研究授業のまとめ（11月26日）

### 1 単元名及び単元の目標

白菜に関わる人のつながりについて考えよう（22/25本時）

- ◎ 白菜を栽培したり野菜を販売したりする共通体験や、白菜について生産者・販売者・消費者の立場から調べ、それぞれの立場になって考え話し合うことにより、生産者や食材を守っていく大切さに気付く。

### 2 本研究授業の提案について

本時では、生産者や食材を守っていく大切さに気付く手だてとして、以下の提案をした。

- (1) 小単元全体を通して児童の希望により栽培リーダー（生産者）・販売者・消費者の立場に分かれて調べたり、調べたことを伝えたりしてきた。

資料1 値段をつけた根拠を説明

本時では、グループごとに白菜の値段を提案する話し合いを行った。消費者グループは、家族へインタビューをし、値段が安いことはよいが、おいしいことや安全であることも大切であり地元産の良さを伝えながら値段を発表した。（資料1）販売者グループは、八百屋が商品知識を活用して料理に合った物を進めたり、おいしい野菜の選びかたや保管の仕方を客に直接話しなが



ら販売したりしていて、おいしい野菜を食べるためには生産者を守ることが大切であることを伝えながら値段を発表した。生産者グループは、白菜栽培のためには、よい種を買わなければならないことや、肥料・水やりなどの経費がかかること・生産者の仕事の大変さを根拠として示しながら値段を発表した。生産者グループの発表を聞き、必要経費がかかることや、自分たちの白菜栽培の体験から、生産者が決めた値段以下になってはいけないと全員が考えた。更に、販売グループが値段を決める根拠とした食品市況では、白菜1kgが百円程度の値段で取引されていることや、取引の値段は生産者が決めるわけではないことを知り、生産者を守る大切さをより実感していた。

### 3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 白菜の栽培や野菜の販売という共通体験や、日本の白菜の原産地である塩竈市野々島で白菜苗の定植体験をし、種作りの歴史について学んだことや、農家の方から、白菜栽培や流通について話を聞いたことにより、意欲的に調べ活動に取り組んだり、他の立場のグループの話を共感を持って聞き自分の考えに生かすことができた。

(2) どの立場でも白菜の価値を比較しやすいと考え、白菜の値段を話題とした。それぞれの立場の労力や努力や希望などの値段を決める要素を記入するワークシートを用意し、グループごとの考えをまとめる手だてとし、それを元に発表した。値段について話し合うことは、自分の小遣いとの比較がしやすく児童にとって関心が高かったが、値段を決める要素をどこまで考慮すればよいのか判然としないところもあり、根拠として曖昧になってしまふところもあった。また、グループごとの意見をまとめるのに時間がかかり、他のグループの発表について、話し合う時間が十分に確保できず、1時間の構成を精査する必要を感じた。

### 4 今年度の研究を振り返って

今年度は、「食いしんぼう、ぼんざい～命のつながりみつめよう～」というテーマで2回の研究授業を行った。食を通して、「命を食べて生きていること」や「生産する人・届ける人がいるからこそ自分たちが食べて生きていけること」を実感できた。このテーマに取り組んだことにより、日常見過ごしてしまってきた「命」をつなぐ人や物に感謝の気持ちを持つことができたとともに、対象にじっくり取り組み考える楽しさを感じることができたと感じている。今後も児童に身近で有意義な学習材を検討していきたい。